頸動脈狭窄（けいどうみゃくきょうさく）

R6.12.25 作成

頸動脈（けいどうみゃく）とは、心臓から送られてきた血液を、首を通って脳へ送る血管のことです。
頸動脈狭窄とは、この首を通る血管の内腔が動脈硬化などによって狭くなった状態をいいます。
主に、頸部超音波（エコー）検査や頭部 MRI/MRA 検査で分かります。

◆ 動脈硬化 ： 加齢や高血圧症、糖尿病、脂質異常症などにより血管がダメージを受け、血管壁が厚くなったり硬くなったりして弾力性が低下した状態。

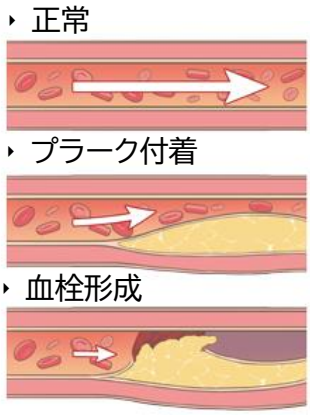
頸動脈が狭窄することで、心臓から脳へ運ばれる血液量が減少したり、血流が滞ることによって血栓（血の塊）ができやすくなったりします。この血栓が血管の壁から剥がれ落ち、脳の血管で詰まる事で発症するのが“脳梗塞” です。

《 主な自覚症状 》

● 脳梗塞（のうこうそく）
脳の血管が詰まり、主に下記のような症状を認める。
- 手足のしびれ、脱力感
- 呂律が回らない
- 顔のゆがみ
- めまい　　など

● 一過性脳虚血発作
（いっかせいのうきょけつほっさ）
脳梗塞の前兆。
一時的に脳の血流が悪くなり、脳梗塞のような症状（ 手足のしびれなど ）が起こった状態。 症状は24時間以内には消失するが、その後脳梗塞を発症することもあるため注意が必要。

● 一過性黒内障
（いっかせいこくないしょう）
脳梗塞の前兆。
頸動脈から分岐する眼動脈が詰まることで網膜への血流が悪くなり、一時的に片目の視力が低下した状態。
黒いカーテンが下りてくる、霧がかってくるなどして見えなくなる。



狭窄の程度よっては、血液をサラサラにするお薬を処方される方もいます。
その場合、打撲などで内出血しやすいため、転倒などには注意をしましょう。

血管狭窄が認められた場合には、医師と相談しながら今後の方針を検討していきましょう。
また、高血圧症や糖尿病、脂質異常症などは放置せず、しっかりと治療を行っていきましょう！